## 4.2.2 騒音

表 4.2.3 調査の手法(騒音)

		文 4.2.3 調宜の手法(騒音)	
環境影響評	環境要素の区分	建設作業騒音、道路交通騒音	
価の項目	影響要因の区分	[工事中]護岸及び埋立ての工事	
	1)騒音の状況		
調査すべき	①環境騒音		
情報	②道路交通騒音及	び交通量	
	2)発生源の状況等		
	1) 騒音の状況 ①環	境騒音	
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地	
		調査)業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情	
		報の整理及び解析。調査内容は、「騒音レベル測定方法	
		(JIS-Z-8731)」に基づき、埋立事業実施区域への主要なアクセス	
		道路を対象とし、地上 1.2mの高さに騒音計を設置し測定。	
		路交通騒音及び交通量	
	文献等資料調査	道路交通騒音の調査結果、道路交通センサス調査結果等の情報の収	
		集並びに当該情報の整理及び解析	
調査の基本	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地	
的な手法		調査)業務委託報告書(A)」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境	
		調査業務委託(B)」における現地調査結果の収集並びに当該情報の	
	7D 111.300 +	整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。	
	現地調査	「騒音レベル測定方法(JIS-Z-8731)」に基づき、埋立事業実施区は、の立事なるないなど思される。	
		域への主要なアクセス道路を対象とし、地上1.2mの高さに騒音計	
		を設置し、道路交通騒音を測定。また、大型車類、小型車類、二輪	
		車の車種別、上下線方向別に毎時間の交通量及び平均走行速度を計	
	_     2) 発生源の状況等	測。	
	文献等資料調査	特定施設の届出の状況、法令の状況等の情報の収集並びに当該情報	
		特定地段の伸出の状況、伝节の状况等の情報の収集业のに当該情報   の整理及び解析。	
	   1)騒音の状況、2)発		
	文献等資料調査		
調査地域	既存の現地調査	重野得印、佃衙印、那朝印   埋立事業実施区域周辺	
<b></b> 前	2 - 11 2 - 11 1	建立事業美地区域同辺	
	現地調査	盲の伝搬の特性を踏まれて触首に係る環境影響を受けるわせれか   あると認められる地域	
	1) 取立の作河 ①理		
	1)騒音の状況 ①環 既存の現地調査	境騒音   埋立事業実施区域周辺の2地点	
		埋立事業美施区映局辺の2 地点 路交通騒音及び交通量	
		路父趙��育及い父趙重 埋立事業実施区域周辺の 12 地点	
調査地点等	,	理立事業美施区域周辺の12 地点   A: 埋立事業実施区域周辺の2 地点	
<b></b> 丽宜地从寺	既存の現地調査	A:理立事業実施区域周辺の2地点   B:那覇港港湾区域周辺の 10 地点	
	現地調査	B: 那朝徳徳湾区域周辺の 10 地点   資材運搬車両、一般車両の走行ルートとなる 3 地点	
		貝/// 理/   単一/	
	2)発生源の状況等	押力車業実施区候国辺様に左左よる工程   車楽相   学の数	
調査地域	文献等資料調査	埋立事業実施区域周辺域に存在する工場・事業場・道路等 生涯の性辺窟	
	1)騒音の状況、2)発		
		至近の調査結果	
	既存の現地調査		
	担地電木	B: 令和3年の秋季の平日1日	
	現地調査	秋季の平日1日	
選定の理由		ては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用す	
	るため、標準的な手法を選定		

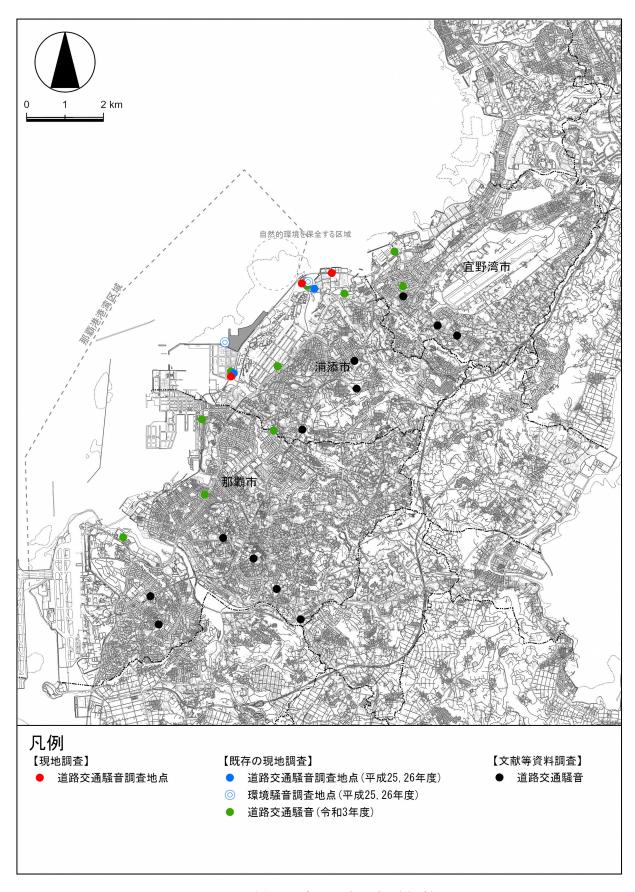


図 4.2.3(1) 騒音の調査地点(広域)

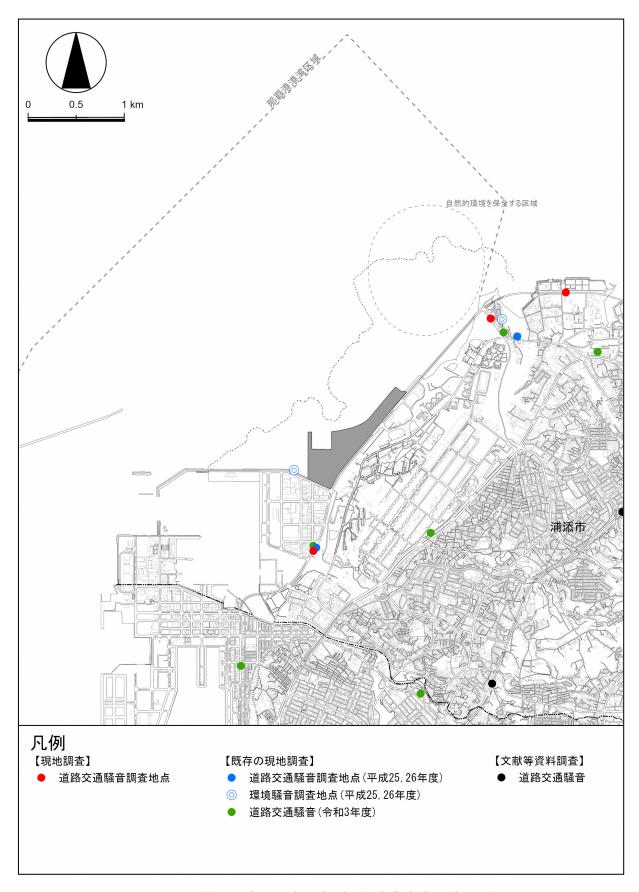


図 4.2.3(2) 騒音の調査地点(埋立事業実施区域周辺)

表 4.2.4 予測の手法(騒音)

環境影響評	環境要素の区分	建設作業騒音、道路交通騒音
価の項目	影響要因の区分	[工事中]護岸及び埋立ての工事
	[工事中]	
予測項目	1)建設作業騒音	
	2) 道路交通騒音	
予測方法	[工事中]	
	1)建設作業騒音	(社)日本音響学会が提案した建設工事騒音計算式「ASJ CN-Model
		2007」により予測
	2) 道路交通騒音	(社)日本音響学会が提案した道路交通騒音計算式「ASJ RTN-Model
		2018」により予測
	[工事中]	
   予測地域	1)建設作業騒音	埋立事業実施区域及びその周辺
17例地域	2) 道路交通騒音	資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートを考慮した埋立事
		業実施区域周辺の道路。
予測地点等	[工事中]	
	1)建設作業騒音	埋立事業実施区域の敷地境界の2箇所に設定。
	2) 道路交通騒音	埋立事業実施区域への資材搬入ルートの3箇所に設定。
予測対象時期等	[工事中]	
	1)建設作業騒音	建設機械の稼働に伴って発生する騒音レベルが最大となる時期。
	2) 道路交通騒音	工事中の資材及び機械の運搬に用いる車両の走行台数が最大とな
		る時期。
選定の理由	工事の実施にあたって	ては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用す
	るため、標準的な手法を選定	

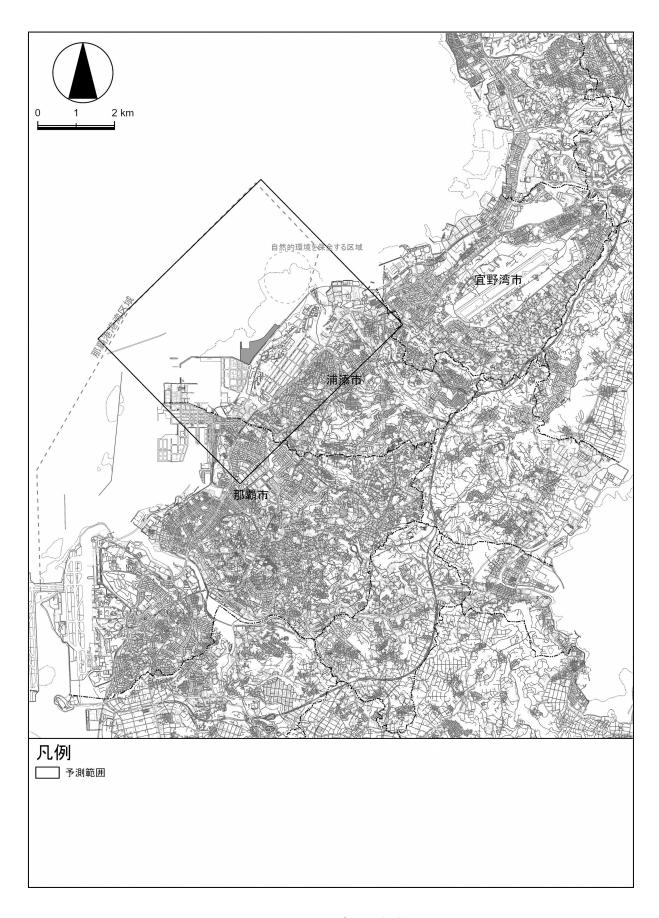


図 4.2.4 騒音の予測範囲

## 4.2.3 振動

表 4.2.5 調査の手法(振動)

		文 4.2.3 嗣生の子伝(派動)	
環境影響評	環境要素の区分	建設作業振動、道路交通振動	
価の項目	影響要因の区分	[工事中]護岸及び埋立ての工事	
調査すべき	1)振動の状況		
情報	①環境振動 ②道路交通振動 ③地盤卓越振動数		
17 74	2) 発生源の状況等		
	1)振動の状況		
	①環境振動		
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査 (現地	
		調査)業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情	
		報の整理及び解析。調査内容は、振動レベル測定方法 (JIS-Z-8735)	
		に基づき、振動計を平坦な地面に設置し測定。	
	1)振動の状況	AL AND THE REPORT OF	
		地盤卓越振動数	
調査の基本	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地	
的な手法		調査)業務委託報告書(A)」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境	
		調査業務委託(B)」における現地調査結果の収集並びに当該情報の	
		整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。	
	現地調査	②振動レベル測定方法 (JIS-Z-8735) に基づき、振動計を平坦な地	
		面に設置し測定。③振動ピークを 1/3 オクターブバンド実時間分析	
		器を用いて周波数分析を行い、地盤卓越振動数を把握。	
	2) 発生源の状況等		
	文献等資料調査	特定施設の届出の状況、法令の状況等の情報の収集並びに当該情報	
	.) IP-61 - 150-	の整理及び解析	
	1)振動の状況		
<b>===</b> 116.1—1	2)発生源の状況等		
調査地域	既存の現地調査	埋立事業実施区域周辺	
	現地調査	振動の伝搬の特性を踏まえて振動に係る環境影響を受けるおそれ	
	1) 控制の作河	があると認められる地域	
	1)振動の状況 ①環境振動		
	リ 現場振 期  既存の現地調査	埋立事業実施区域周辺の2地点	
	2014 20 000	生工尹耒夫旭匹啖问辺٧/ 2 地点	
	1)振動の状況		
調査地点等		地盤卓越振動数 A:埋立事業実施区域周辺の2地点	
	既存の現地調査	A:埋立事業美施区域周辺の2地点   B:那覇港港湾区域周辺の10地点	
	現地調査	B: 那覇を径得区域周辺の10 地点   資材運搬車両、一般車両の走行ルートとなる3 地点	
	現地調査   2)発生源の状況等	貝内理豚中門、一阪中門の左11ル一トとよる3地品	
	既存の現地調査	埋立事業実施区域周辺域に存在する工場・事業場・道路等	
		性エザ未大旭位域内也域に付任する上笏・尹耒炀・追始寺	
調査期間等	1) 振動の状況   2) 発生源の状況等		
	既存の現地調査	A: 平成 26 年の秋季の平日 1 日	
		A: 平成 26 年の秋季の平日1日   B: 令和3年の秋季の平日1日	
	現地調査	▶: ¬和3年の秋学の平日1日 秋季の平日1日	
選定の理由	工事の実施にあたっては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用するため、標準的な手法を選定		
	<b>しい、保中的な子伝を迭</b> 足		

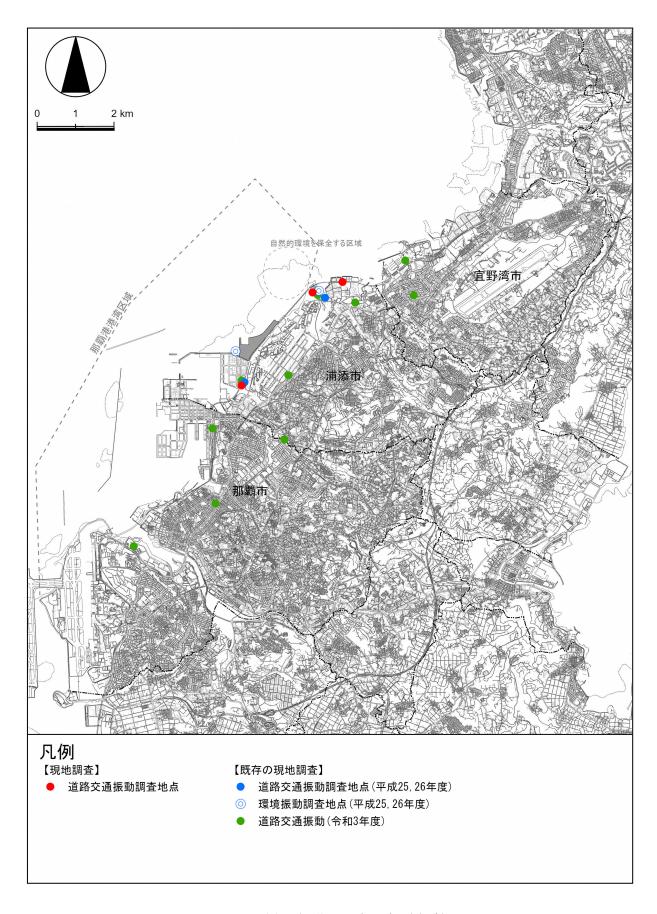


図 4.2.5(1) 振動の調査地点(広域)

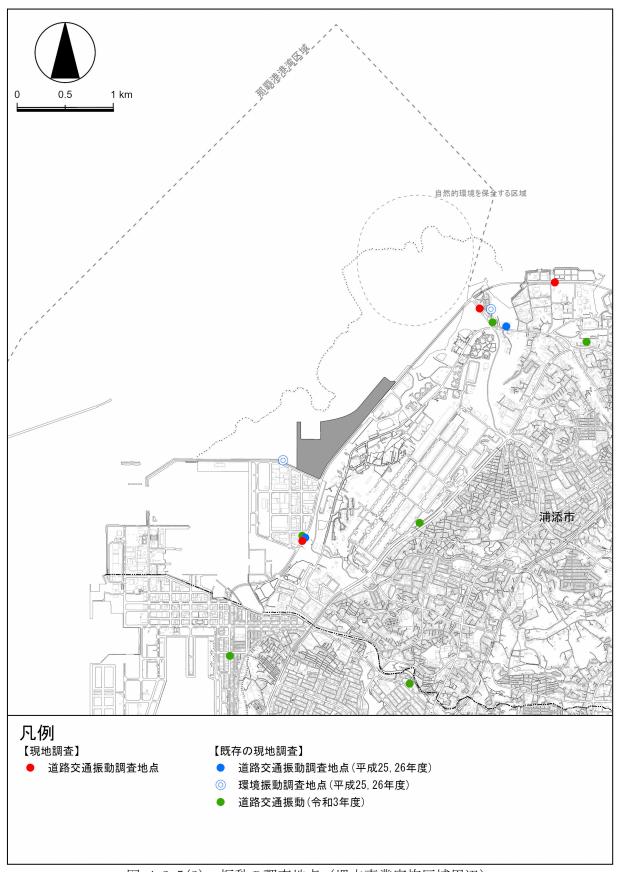


図 4.2.5(2) 振動の調査地点(埋立事業実施区域周辺)

表 4.2.6 予測の手法(振動)

環境影響評	環境要素の区分	建設作業振動、道路交通振動
価の項目	影響要因の区分	[工事中]護岸及び埋立ての工事
予測項目	[工事中]	
	1)建設作業振動	
	2) 道路交通振動	
	[工事中]	
予測方法	1)建設作業振動	「道路環境影響評価の技術手法」に準拠して振動の伝搬理論計算式
	2) 道路交通振動	に基づく予測
	[工事中]	
	1)建設作業振動	振動の伝搬の特性を踏まえて環境影響を受けるおそれがあると認
予測地域		められる地域として埋立事業実施区域及びその周辺
	2) 道路交通振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の走行ルートを考慮して、埋立事
		業実施区域周辺の道路を選定
	[工事中]	
予測地点等	1)建設作業振動	埋立事業実施区域の敷地境界の2箇所に設定
	2) 道路交通振動	埋立事業実施区域への資材搬入ルートの3箇所に設定
	[工事中]	
予測対象時	1)建設作業振動	建設機械の稼働に伴って発生する振動レベルが最大となる時期
期等	2) 道路交通振動	工事中の資材及び機械の運搬に用いる車両の走行台数が最大とな
		る時期
選定の理由	工事の実施にあたっ	ては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用す
	るため、標準的な手	法を選定

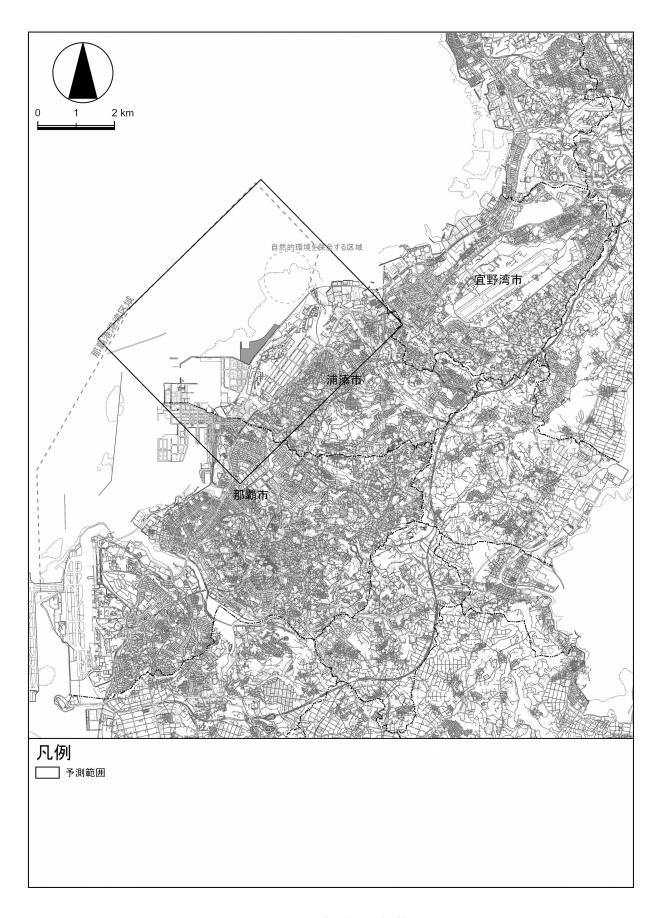


図 4.2.6 振動の予測範囲